【高等学校用】

令和７年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている　Ｃ：やや不十分である
Ｂ：おおむね達成できている　Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立佐賀西高等学校
1　前年度	・進路実績に対する学校への内外からの期待は大きく、令和７年度も引き続き様々な取り組みを行う。 ・総合的な探究の時間の取り組みは高く評価できた。令和７年度は、新たな取り組みとして他校とのプレゼンバトルもあり、探究活動の機運を高めていく。 ・標準服制度が開始され生徒の自主性を生かす取り組みが進められている。
2　SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○旧制佐賀中学校以来の長い伝統を誇る高校として、科学・文化・社会の創造・発展を担い、将来の佐賀・日本・世界を支え、切り拓く多様な人材を育成する。 ○変化の激しい時代の中で、主体的に生き抜くための社会性や優れた知性、広い視野を獲得する教育を実践する。
4　本年度の重点目標	【スローガン】　志高く、挑戦を (1)　カリキュラム・ポリシーを着実に実施し、生徒が身に着けるべき力を保障する。 (2)　生徒一人一人の適正・能力を最大限に生かした進路保障を実現する。 (3)　唯一無二の誇り高き信頼される学校づくりに努める。 (4)　組織力向上と業務改善を推進する。

3　スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	○高校入学後も様々なことに意欲的にチャレンジする、次のような人を求めます。 1 高い志、リーダーとしての意欲、実行力を有する人 2 学業に前向きで、一層の向上を目指して努力する人 3 他者との様々なかかわりの中で豊かな人間性を身に付けようとする人 4 学校行事や部活動などを通して、社会性、忍耐力など身に付ける努力をする人	<教育課程編成及び実施に関する方針> ○次の方針により教育課程を編成します。 ・低学年に必履修科目を多く、高学年に選択科目を多く配置 ・２年次は文系・理系、３年次は文Ⅰ・文Ⅱ・理系の教育課程を設置 ・探究活動を継続的に行えるよう、各学年に総合的な探究の時間を設置 ・社会性の発達にあわせて特別活動を計画的に実施 ○５つの力を次のように身に付けていきます。 ・知識等を活用し、判断し、行動していくことで「主体的判断力」を身に付ける。 ・情報リテラシーを身に付け、探究のプロセスを繰り返すことで「課題発見力・解決力」を身に付ける。 ・自己を振り返り、倫理観や人としての在り方を学び、行動に生かすことで「自律力」を身に付ける。 ・協働的な活動や課外活動等での経験を通じて「協働力」を身に付けます。 ・自己を振り返り、各教科や総合的な探究の時間に生かすことで「キャリア形成力」を身に付ける。	○「質実剛健」「鍛身養志」を校是とし、品位をもって逞しく生きていくために高い志と社会性を養います。 ○スクール・ミッションを実現するため、次の５つの力を身に付けます。 ・確かな知識や豊かな教養を基礎として、物事を多角的・多面的に吟味・検討し、主体的に判断することができる。（主体的判断力） ・既習の事柄や、自ら収集・整理・分析した情報を活用して、問いを立て、課題解決に向けて思考・判断し行動することができる。（課題発見力・解決力） ・自己を客観的に把握し、確かな人権意識に基づいて自らが立てた規範に従って行動することができる。（自律力） ・他者を尊重し、対話を通じて協働して課題に取り組むことができる。（協働力） ・社会の課題を知り、自己と社会との関わり方をデザインし、その実現に向けて行動することができる。（キャリア形成力）

5　重点取組内容・成果指標

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	◎★高い志を持ち、自らの夢や目標の実現に向けて主体的に努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎学習状況調査結果：授業満足度 ・予習・復習、課題への取組み 85%以上 ◎★学校評価アンケート結果： ・自己実現への進路選択達成率 90%以上	・「総合的な探究の時間」で、社会に目を向け自分の将来像を描かせる探究活動を中心としたキャリア教育を実践する ・ジェネリックスキルテストとキャリア・パスポートを有効活用する ・学年に応じた具体的な進路情報を提供、大学入試に関する理解を深める ・三者面談、保護者会等を通じて、進路指導に関する保護者の理解と協力を得る	B	・1学期末の学習状況調査結果：授業の準備と積極的な参加85%（全学年・全科目平均）おおむね達成できている。 もともと予習を課さない教科もあるため、数値としては問題ないものと捉えている。 ・1年、3年ともに保護者会を実施し、時機に応じた情報を提供することができた。1年保護者では、社会状況を踏まえた新課程入試や高大接続に関する大学教授の講演等を行い、文理選択の一助となる情報を提供した。3年保護者会では、入試の現状や保護者のサポートについて講演会を行った。	A	◎学習状況調査 ： 予習・復習、課題への取組　目標達成 ◎学校評価アンケート ：自己実現への進路選択達成率 目標達成 ・「総合的な探究の時間」では、探究活動（社会問題研究、テーマ別探究、自由課題研究）に加え、様々な職業人の話を聞いたり（1年職業人の話を聞こう）、大学の学問に触れたり（1年大学出前講座）して自分の将来について考える機会を持つことができた。 ・立教大学より講師を招き、統計・プレゼンに関する講演会を実施した。また、ピーターフランクル講演会は、生徒に加え多くの保護者も参加していただき非常に好評であった。 ・三者面談、1年、3年保護者会、2年医学科説明会等を通して、保護者にも情報を提供することができた。	A	・成果指標が目標を達成しているのは良いが、意欲的な取り組みに対して第１回目の調査より第２回目の数値が下がった要因は検討すべき。 ・2年生の保護者会は医学科以外の説明会も必要ではないか。 ・1、2年生で進路の選択ができているのは良い。明確なゴールが見つかれば自ずと目標設定ができる。	進路指導主事 各学年主任
	○主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた教師の授業力向上と生徒の学習への主体的取組を確立	○学習状況調査結果：授業満足度 ・授業への評価　90%以上 ○学校評価アンケート結果： ・教師自身の授業力向上の取組みの自己評価　85%以上 ・生徒の学習への主体的取組みの自己評価　80%以上 ○進研模試全国偏差値： ・1、2年　65以上 ○日々の記録集計結果： ・各学年平均180分以上	・教科会議の充実（教科内での連携を図る）、シラバスの見直し、教授法研究、作問・評価方法の検討等を進める ・西高模試、2年実力テストの作問を通じた教科指導力の向上を図る ・各種研修会に積極的に参加する ・各学年で教科担当者連絡会を開き、生徒の現状を把握し連携して課題解決を図る ・ジェネリックスキルテストを有効活用して、クラス担任や教科担当による個人面談や個別相談体制を充実させ、きめ細やかな学習ガイダンスを行う	B	・1学期末の学習状況調査結果：授業を通じて学力向上ができたか　93%（全学年・全科目平均）後述の偏差値や学習時間を含めておおむね達成できている。 ・西高模試、2年実力テストの作問では各教科・科目で担当学年を超えて検討会を実施した。 ・予備校等の研修会（対面・オンライン）は積極的に参加している。 ・7月進研模試では全国偏差値は1年62.4、2年64.3であった。模試結果を踏まえて学年・教科担当者で分析を行い、生徒の現状把握に努めた。 ・クラス担任や教科担当者による個人面談は、面談週間を中心に、その他の期間も含めて実施している。ジェネリックスキルテストも入学後を中心に活用した。 ・日々の記録集計結果：1年140分、2年165分、3年215分	B	・学習状況調査結果 ： 授業満足度　授業への評価　目標達成（全科目平均） ・学校評価アンケート結果 ： 教師自身の授業力向上の取り組みの自己評価　目標達成 生徒の学習への主体的取り組みの自己評価　目標達成 ・１１月進研模試全国偏差値 ： 目標を達成できなかった。 ・進学指導部会主催の教科指導法研究会や予備校等の研修会、校内での授業参観等、積極的に参加し、教科指導力の向上を図った。 ・先進校視察（福井、石川両県トップ校）を行い、職員会議で視察報告するとともに、教科内での共有を図り指導に活かしている。 ・日々の記録集計結果 ：目標を下回り家庭学習時間の十分な確保にむけては課題が残る。	A	・成果指標は概ね達成しているので、偏差値の設定が高いと感じる。総合的に評価はAでよい。 ・目標設定を実際値より＋１以上大きくしていく考え方がよい。 ・自宅学習時間について最近の高校生は減ってきていると感じる。	進路指導主事 各学年主任 各教科主任
	○ICT活用に関する職員のスキルアップと生徒の学習用PC活用率の向上	○学校評価アンケート結果： ・生徒の学習用PCの効果的な活用の調査授業および授業以外（プレゼンテーションや部活動）で活用している生徒の割合80%以上 ○学習状況調査結果： ・授業時のICT機器利用による授業理解度の向上について　80%以上	・ICTを活用した授業の実施 ・公開授業、研究授業の実施 ・ICT活用に係る各種研修会へ職員派遣 ・総合的な探究の時間、ホームルーム活動、学校行事、部活動等での学習用PCの利用 ・デジタル採点システムの活用	A	・電子黒板はほぼ全ての教科で利用されているが、学習用PCの利用頻度は、教科の特性によって差がある。 ・ICT活用に係る各種研修会の周知は随時行い、職員派遣も適時実施している。 ・総探での学習用PC利用率は非常に高い。特にプレゼンテーション作成や調査等に利用され、生徒のICT利活用能力の向上につながっている。一方で、台数に対する通信環境の弱さが授業時の大きな課題となっており、改善を求めているところである。 ・デジタル採点システムが定着し、採点時間短縮や正答率に基づいた教科指導の最適化が進んでいる。	A	・学校評価アンケート ： 授業や授業以外の活動で学習用PCを効果的に活用 目標達成 ・学習状況調査結果 ： ICT機器の利用による授業理解度の向上に関する調査で、教科の特性上ICT機器の利用が少ない教科を含めても、目標を達成しており生徒が効果を実感している。 ・電子黒板は授業内容に応じて、電子黒板と黒板それぞれの利点を考えながら使い分けるなど、全教科で効果的に利用されている。 ・学習用PCを用いた研究授業や各種研修会への参加を通じて、職員のスキルは向上している。 ・デジタル採点システムの活用により、採点時間が減少するとともに、生徒の習熟度を測ることが容易になり、教科指導の質の向上につながっている。	A	・成果指標を超えており妥当であると考える。 ・授業参観では電子黒板の積極的活用がされていると感じた。 ・インターネットやサーバーへの接続環境を整える必要性はある。	教育情報化推進リーダー 教務主任 （各教科主任） （各部活動顧問）
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○標準服制度の生徒満足度80%以上 ○生徒指導措置数 0件 ○部活動加入率90%以上 ○学校評価アンケート結果 ・校則や交通ルールの順守への自己評価　90%以上 ○SNS使用による不適切な掲載、投稿等のトラブルを0（ゼロ）にする	・全職員で共通認識を持ち、TPOに応じた服装を指導する ・登校時等、交通の指導を行う ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的参加を促進 ・「茉城令和宣言SNS五箇条」の遵守 ・情報モラル講演会等で、具体例を交えて指導を行う	A	・昨年度から、本校で標準服制度が導入された。導入直後はいくつか課題が出てきたが、現在は比較的落ち着いて服装選択をしていると感じている。今後も継続して指導を行いたい。 ・部活動加入率は96.1%であった。ほとんどの生徒が、何らかの部活動に入部し活動している。活動を後押ししたい。 ・今年の7月、本校へ佐賀南警察署職員を招いて交通安全・防犯教室を開催した。防犯教室の中で、SNSの不適切使用について実例を挙げて話していただいた。生徒達にとって、大変有益な講話であった。	A	・学校評価アンケート結果 ：　部活動加入率　目標達成 生徒の交通ルールの順守への自己評価　目標達成 ・生徒は学校行事、部活動、生徒会活動等に主体的に参加しており、生活リズムの確立や挨拶、時間厳守等の基本的生活習慣が身についたと感じている。 ・本校では、令和6年度から標準服制度を導入した。現状として、落ち着いて服装選択をしていると感じている。生徒アンケートでは、1日でも私服登校をしたことがある生徒は72%である。 ・特別指導を必要とする生徒指導事案　1件 ・他を思いやる心・豊かな心の教育については、登校時交通指導や全校集会時のSNS利用についての講話等で育むよう働きかけた。 ・佐賀県警のネットパトロールから指導が必要と指摘を受けた。2件	A	・学校評価アンケートや部活動の加入率など、成果指標を超えておりAで良いと思う。 ・目標値をゼロとするより、適切に対処できたかで評価されるべきで、目標の立て方を再考してはどうか。	生徒指導主事 各学年主任 生徒会担当 （各部活動顧問）
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ重大事態件数：　0件 ○個人または三者面談：年6回 ○学校評価アンケート結果： ・いじめの早期発見と対応への評価 90%以上	・年3回いじめに関するアンケート調査を実施 ・クラス担任、教科担任や部活動顧問、養護教諭等から広く情報を収集 ・覚知後の速やかな対策委員会開催、関係職員間での情報共有により組織的に対応し、被害生徒のケアと保護者への説明を適切に実施	A	・いじめに関するアンケートを2回実施（6月、11月） ・3回の個人面談、2回の三者面談を実施 ・校内いじめ・体罰等対策委員会を8回開催し、いじめ事案の認知件数件は8件である（二学期末現在）	A	・いじめ重大事態件数 ：０件 ・学校評価アンケート ： いじめの早期発見と対応への評価　目標達成 ・６月、11月、２月と年3回のアンケート調査を実施した。 ・個人面談を年６回実施。校内いじめ体罰等対策委員会を年８回実施 ※いじめ事案認知件数　10件	A	・目標と成果からすればAである。しかし、この問題は顕在化しにくいこともあるので、引き続き留意して取り組んで欲しい。	主幹教諭 各学年主任 生徒指導主事 教育相談担当

		○環境美化への主体的な取組	○学校評価アンケート結果： ・掃除、ごみ持ち帰りへの取組 90%以上	・ 生徒保健委員によるゴミのチェック、呼びかけ ・ 生徒主体型の環境美化に関するHR活動	B	・生徒保健委員によるゴミ分別の推進は良好。 ・ゴミの出し方が不十分であった。 ・環境美化に関するホームルームは2年生は6月に実施済み。 1・3年生は12月に実施予定。	B	・ 学校評価アンケート ： ゴミの持ち帰りへの主体的取り組みの評価　目標達成 ただし、職員の評価は70%台と認識に差が開いている。 ・ 教室の棚の整頓については学校評議員の視察で完全の余地があると指摘された。環境美化、ゴミの持ち帰りなどへの意識がやや緩んでおり、改めて生徒に周知する必要があった。 ・ 生徒保健委員は、教室の整理整頓や、ゴミの分別など自らが積極的に環境美化について取り組んだ。	B	・成果指標を超えているのにBにした根拠がもう少し欲しい。 ・教室の棚の整頓がクラスによりできていなかった。	保健主事
		○自発的な読書習慣の確立 ○グローバル社会で通じる幅広い知識と教養の醸成のための活動	○生徒一人当たりの貸出冊数：年5冊以上 ○図書に関する情報を載せた「遠心」（図書館だより）を年8回発行する ○社会事象等に関するインフォメーションペーパーを随時発行する	・ 読書に関するアンケートを実施し、生徒の実態を把握する ・ 推薦図書等を「遠心」（図書館だより）で紹介する ・ インフォメーションペーパーで社会事象を紹介する ・ 掲示物やレイアウトを工夫し、図書閲覧室を使いやすいように整備する ・ 生徒図書委員による読書活動の呼びかけを行う	B	・図書館だより「遠心」を読んでもらえるような工夫をして発行し、新着本や推薦図書を紹介した。発行回数を増やす予定である。 ・インフォメーションペーパーを定期的に発行した。最新の社会事象に関する知識提供を行った。 ・9月までの一人当たりの貸出冊数は2.8冊で、昨年の同時期と比較して0.56冊増加 であったが、近年の減少傾向は続いている。アンケート実施や図書委員の活動機会を設け、継続的な読書推進を行っていきたい。	B	・ 図書だより「遠心」の発行部数は増やすことはできなかったが、紹介した本の貸出数は増加しており、今後も印象的な記事の工夫を行いたい。 ・ 定期的にインフォメーションペーパーを発行し社会情報の提供ができた。 ・ 読書アンケートを実施し、生徒の実態を調査することができた。この結果を受けて、「生徒会」の図書委員会と協力し、生徒同士で「薦めたい本」を紹介し合う取組を始めることができた。 ・ 一人当たりの貸出冊数は目標を達成することができなかったが、昨年度とほぼ変化は無かった。国語科や地歴公民科の協力を得て、授業で図書館を活用する機会を設けたこともあり、これまで利用していなかった生徒の貸出が増える変化があった。	B	・目標貸し出し数5冊が、妥当な目標数値なのか。局所的な目標で生徒の実態と合致していない感じがする。 ・校外の図書館やデジタル書籍なども統計に用いてはどうか。	学校図書館主任
	●健康・体つくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の交通事故を0にする ○集会や交通安全講話等で自転車ヘルメットの重要性を指導し、自転車ヘルメット着用率を50%にする ○山・川・海での生活事故を0にする ○闇バイトやオンライン詐欺等のネットトラブルに巻き込まれないようにする	・ 生徒指導部を中心に登校指導を行う ・ 集会や交通安全講話等で自転車ヘルメットの重要性を指導し、少しでも多くの生徒が自転車ヘルメットを着用するよう促していく ・ 山や海での事故は命にかかわることを認識させ、重大事故を未然防止する ・ 闇バイトやオンライン詐欺等、危ない話に加担しないよう指導する	B	・今年度前期の自転車事故は、例年並みの13件である。今年度は、重大事故は発生していない。 ・1学期に行った自転車ヘルメットアンケートでは、本校生徒のヘルメット着用率は昨年度の5%から15%に上昇した。さらに着用率を上げていきたい。	B	・ 交通事故件数は昨年と同数の15件である。現時点で重大な自転車事故は発生していない。 ・ 年度初めから学校周辺の地図を示し、集会等で交通ルール遵守について注意喚起した。 ・ 自転車乗車中のヘルメット着用の努力義務について、集会等で話をして着用を推奨した。 ・ 令和8年度4月から道路交通法改正により、自転車の違反運転が青切符対象となることを考慮し、本年度から周知徹底を行っている。	B	・安全に関する取り組みとしてはAの評価はある。 ・他県を参考にヘルメット着用に関しては義務化を働きかけて欲しい。法律に抵触することなので県教委全体で取り組むものではないか。	生徒指導主事
		○熱中症、感染症予防	○学校生活における熱中症の防止 （重度の熱中症0） ○県内・校内の感染症流行情報の発信 ○保健だよりでの感染症予防啓発：年5回 ○学校評価アンケート結果： ・校内の感染症予防への評価 90%以上	・ 危険がある時期は、暑さ指数を職員室横廊下及び教室等廊下に掲示し予防を啓発 ・ 保健室利用状況及び感染症情報収集システム等を活用で、早期に感染症流行状況を検知し、保健だよりを通して発信 ・ 生徒主体型による感染予防喚起のHR活動	B	・WGBT等の活用とともに、授業間における水分補給や休憩、換気など十分にできたため、授業での重症の熱中症はなかった。 ・西高祭期間は、熱中症対策を度々呼びかけたが、寝不足が原因で要受診の熱中症があった。生徒に引き続き自己管理を呼びかけつつ、西高祭の実施場所や時期も是非検討したい。 ・西高祭後のコロナ感染症拡大で学級閉鎖が行われたが、早めの閉鎖でその後の感染拡大は免れた。事前に感染予防の喚起を徹底すべきであった。	B	・熱中症の防止については、目標達成 ・学校評価アンケート ： 学校では感染症の流行を防ぐために、適切な対応を図ったかへの評価　目標達成 ・ 今年度も県内でのインフルエンザ等感染症流行期に、数回学級閉鎖の措置を講じ、その後の対策で長引く事はなかった。感染症流行前の呼びかけとして保健だより、校内での流　行が疑われるタイミングには、職員・生徒それぞれの日課表や朝SHRで再度予防対策の強化を呼びかけを行っているが、行事後の流行が毎年あるため、行事前の予防対策に力を入れる必要がある。 ・ 十分に感染予防の知識はある生徒たちなので、更に主体的に行動できるよう、今年度も保健に関するHR活動を実施した。	A	・成果指標を超えており妥当な評価だと思う。 ・西高の体育祭の日は大変暑かった。テント数や時間短縮など対策は行われていた。来年度は体育祭の時期や場所についての検討は十分行って欲しい。	保健主事 （保健体育科主任） （各部活動顧問）
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・ 定時退勤日、部活動休養日、学校閉庁日の設定と実質的な運用 ・ 出退勤システムによる職員の時間外在校等時間の把握と削減の呼びかけ ・ 年次休暇等の休暇取得の勧奨 ・ ICTを活用した業務改善と効率化	A	・夏休5日を取得しやすいよう週休日・祝日を除いた学校閉庁日を7日設定した。 ・定時退勤や休暇取得推進のため、考査期間中の会議や研修を極力、削減した。 ・欠席連絡や諸調査、各種アンケートなどのICT活用は業務の効率化につながっている。デジタル採点システムの活用も業務効率化に機能し始めている。	A	・ 12月末時点で、時間外在校等時間の月平均が前年度比で短縮できた。また、学校評価アンケートでは、定時退勤推進日等の設定、積極的な休暇取得の奨励などによって時間在校等時間の縮減・解消に対する意識が高まったと回答した職員が昨年度より大幅に増加した。 ・ ICTの活用による業務改善も有効であった。特に、デジタル採点システムの活用効果が高い。また、2学期途中から全体での職員朝礼回数を減らすなどの取り組みも開始した。	A	・各項目で、改善傾向があることは良いことだと思う。 ・新たな取り組みもされており、継続してもらいたい。	教頭
	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○シェアシートでの情報共有：各学期に2回以上	・ 特別支援教育に関する職員研修の実施 ・ 個別のケース会議を開催し、関係者間での情報共有を図る	B	・一学期に職員研修を実施した。 ・毎月シェアシートを活用した会議を実施し、情報共有を図り、生徒対応を行っている。 ・個別のケース会議は開くことがなかった。	A	・ シェアシート会議を毎月実施することで生徒の状況を職員間での情報共有を行うことができた。	A	・不登校は悪いことではないというスタンスでやって欲しい。	特別支援教育コーディネーター 保健主事

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★探究活動の推進	★新・理想の星プロジェクトの実践	★活動を通して、自らの思考が深まった 90%以上 ★他者と協働しながら主体的に活動できた 90%以上 ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒90%以上　教職員86%以上	・ 主体的な探究活動を推進し、他者と協働しながらポスターセッションに向けて準備させる ・ フィールドワークを推奨し、研究に深まりをもたせる ・ 中学生を含めた多数の聴衆の前で発表する機会をもたせる	B	・班を作って取り組ませた2年生のポスターセッション及び探究活動発表会は無事に終了した。 ・金沢大学主催の高校生未来プレゼンバトルについても、校内予選を終え、2チームが9月27日（土）に金沢大学での最終審査会に出場し、大賞を受賞した。 ・1年生はテーマ別研究（グループ研究）、2年生は自由課題研究（個人研究）に取り組み、1年生は11月に統計について講演会で学んだ。 ・成果指標について今後アンケート実施予定。	A	・ 3年生は自由課題研究の成果として開校記念行事でプレゼンテーションを行った。2年生はフィールドワークを踏まえた研究成果としてポスターセッションを7月に行い、その優秀作については、8月の探究活動発表会でプレゼンを行い、中学生にも参加してもらった。1年生は2年1学期のポスターセッションに向けてフィールドワーク等の準備をすすめている。 ・ 探究活動を通して、自らの思考が深まった　目標達成できなかった。 ・ 探究活動を通して、他者と協働できた　目標達成できなかった。 ・学校評価アンケート ： 自分の学校を中学生に勧めることができる　生徒、教職員ともに目標達成	A	・鍛身養志の要素をもった西高としてのシンボリックなものがあっても良いのでは。昔は、耐寒訓練があったが、今はビジネス業界でも合宿を行うなど非日常的な取り組みをされている。 ・職員が勤務する学校を勧められない回答があるのは課題ではないか。	進路指導主事 （各学年主任）
○個別支援の必要な生徒への対応	○個々の生徒の状況に即した教育相談	○今年度新規の不登校による長欠生徒数を前年比50%以下にする	・ 組織的な情報共有と連携による対象生徒の早期発見、早期対応 ・ SC、SSWや外部機関等との連携 ・ 適切な対応力醸成のための職員研修の充実	B	・各担任と保健指導部、管理職とも情報共有を図り、連携して対象生徒への対応を行っている。 ・SCや外部機関との連携も良好である。 ・特別支援教育に関する職員研修も実施できている。	B	・ 不登校の生徒数は昨年度比で増加した。さまざまな悩みを抱え、教室に入ることができない生徒が増加している。別室等の物理的な資源も人員も十分ではないが、各学年や保健室等の献身的な対応により欠席の長期化を免れているケースもある。 ・ SCと密に連携を図ったことで医療機関とつながったケースもあるなど、専門機関を交えた個別対応も行っている。	B	・不登校の数値で成果を出すのは難しい。来年度は指標の見直しを検討して欲しい。 ・努力されているとは思う。成果がすぐには出ない分野なので、根気強く取り組んで欲しい。	教育相談担当 （各学年主任） （保健主事）
○広報活動	○保護者、地域、中学生への魅力ある情報発信	○学校評価アンケート結果： 本校の情報発信の取組への評価 80%以上 ★県外出身受検者数を10人以上	・ 西高だよりや学校HP、スクールNEWSを活用した、学校行事や進路情報、部活動成績などの情報を提供 ・ 西高だよりの年7回の発行と内容の充実 ・ 学校HPのサイト導線の工夫や、動画機能等の活用による情報発信を模索 ・ 保護者へのスクールNEWS登録の推奨 ・ 学校案内パンフレットの内容の充実	A	・学校HPでは行事終了後3日以内に更新を行い、内外に向けて学校からの最新情報の発信を提供している。また、学校の様子が伝わるように個人情報に留意しつつ写真も多数掲載している。 ・西高だよりは現在4回発行している。 ・学校HPのサイト導線は閲覧しやすいように工夫している。 ・学校案内パンフレットは在校生の声や卒業生の対談を入れるなどして内容をより充実させた。 ・6月各地で開かれる高校説明会で説明の在り方を検討したい。	A	・ 学校評価アンケート結果 ： 西高だよりや学校ホームページ等を通じて、積極的に情報発信を行ったかの評価　目標達成 ・ 学校HPは、レイアウトを変更し閲覧者が見やすい状態になった。 学校の様子がわかるように各種行事の様子を積極的に配信した。 ・ 西高だよりは年間8回発行できた。文化部の活動等（九州大会弁論発表原稿）も積極的に掲載した。 ・ 学校HPのサイト導線の整理を行った。 ・ インスタグラム等のSNSの活用については検討したが、今年度は掲載はしていない。 ・ 学校案内パンフレットは概ね好評だった。	A	・成果指標を超えておりよく取り組まれていると感じる。 ・県外からの受検者数は、学校評議員会の時期では分からないのではないか。	広報研修主任

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育　★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6　総合評価・ 次年度への展望　（簡潔に）	・進路実績に対する学校への内外からの期待は大きい。学習時間や模試の偏差値による成果指標は、生徒の進路希望に即したものであるが、達成度を考えた場合、学年毎に評価できるように検討を要する。また、３年次の偏差値の下落についての対応も検討を行う。 ・成果指標によっては、不登校生徒数半減や交通事故０など容易に結果がだせないものがあり、職員の努力に対して見合った達成度がでるよう次年度は成果指標の見直しを検討したい。 ・今年度も総合的な探究の時間の取り組みは高く評価できた。探究活動での発表を生かして大学の推薦入試に活用できた事例もみられた。課題は、二学期後半の生徒のモチベーションの維持である。 ・広報活動は十分行われている。今年度は長年の課題であった学校ＨＰのサイト導線の工夫がなされ、生徒・保護者からも高い評価が得られた。 ・標準服制度については、生徒の自主性を生かしながら、運用が軌道にのり始めている。課題としては、４月から道路交通法が改正され自転車の交通違反が厳格化するため、交通マナーの向上を図るようにしていく。